

2023年3月期 連結決算 説明資料

株式会社丸運
(東証スタンダード市場 9067)

Maruwn Corporation 



- **2023年3月期 連結決算概要**
- **セグメント別概要**
- **2024年3月期 通期業績予想**
- **第3次中期経営計画の振り返り**
- **第4次中期経営計画の概要**
- **参考資料**

2023年3月期 連結決算概要

2023年3月期 連結決算概要（前期比）

Maruwn Corporation

(百万円)	22/3期			23/3期			前期比
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額
営業収益	22,766	23,939	46,705	22,906	23,680	46,586	△ 119
営業利益	293	372	665	△ 18	457	439	△ 226
（営業収益比）	(1.3%)	(1.6%)	(1.4%)	—	(1.9%)	(0.9%)	
営業外収益	74	71	145	99	109	208	63
営業外費用	17	20	37	14	22	36	△ 1
経常利益	350	423	773	66	546	612	△ 161
（営業収益比）	(1.5%)	(1.8%)	(1.7%)	(0.3%)	(2.3%)	(1.3%)	
特別利益	61	41	102	33	29	62	△ 40
特別損失	69	21	90	1	162	163	73
親会社株主に帰属する当期純利益	160	305	465	67	249	316	△ 149
EBITDA	1,484	1,647	3,131	1,309	1,705	3,014	△ 117

（注）百万円未満は切り捨てしております。

セグメント別概要

セグメント別決算概要（前期比）

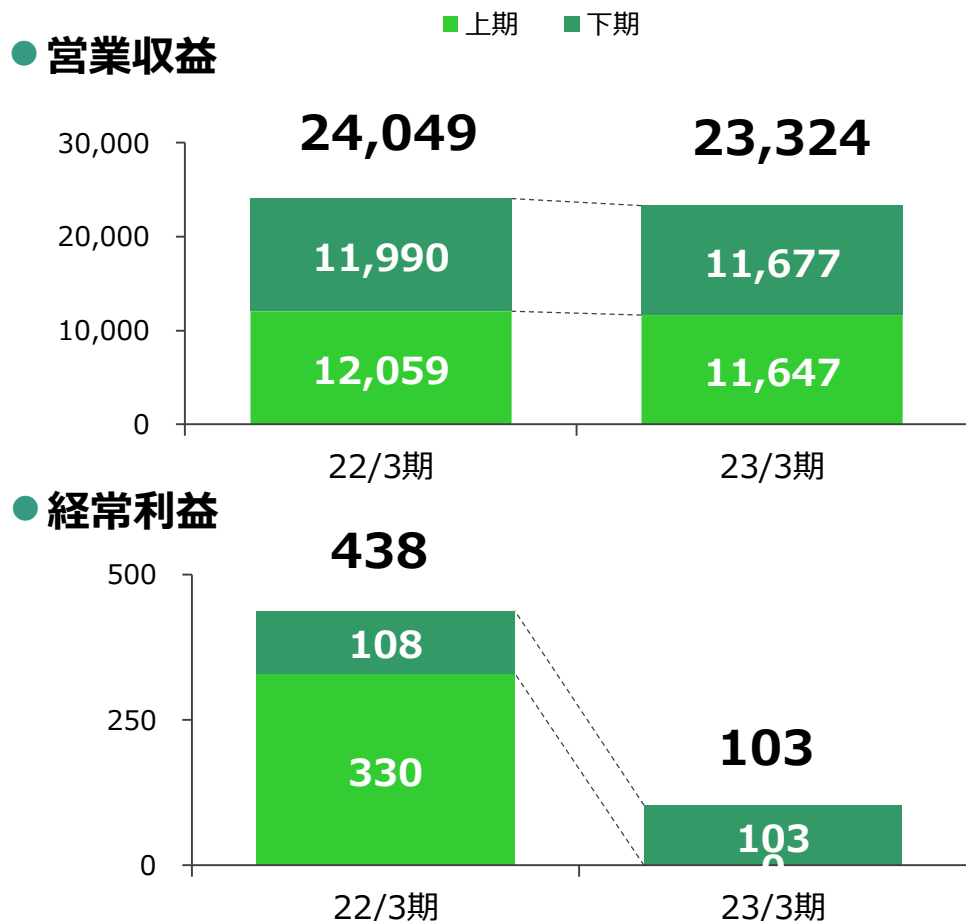
(百万円)	22/3期		23/3期		前期比
	通期	構成比	通期	構成比	増減額
営業収益	46,705	100.0%	46,586	100.0%	△ 119
貨物輸送	24,049	51.5%	23,324	50.1%	△ 725
エネルギー輸送	15,293	32.7%	15,400	33.1%	107
海外物流	5,498	11.8%	6,042	13.0%	544
テクノサポート	1,836	3.9%	1,794	3.9%	△ 42
その他	27	0.1%	24	0.1%	△ 3
	通期	利益率	通期	利益率	増減額
セグメント利益	773	1.7%	612	1.3%	△ 161
貨物輸送	438	1.8%	103	0.4%	△ 335
エネルギー輸送	250	1.6%	277	1.8%	27
海外物流	46	0.8%	55	0.9%	9
テクノサポート	42	2.3%	96	5.4%	54
その他	△ 4	-	80	-	84

(注①) 百万円未満は切り捨てしております。「その他」の事業は、損害保険代運業・事務代行業等であります。

(注②) 22/3期の営業収益およびセグメント利益については、会社組織の変更に伴い、貨物輸送セグメントに含まれていた「国際事業」について、海外物流に含めて表示しています。

既存顧客との取引拡大および料金改定に取り組んだが、
基幹システム導入および素材一貫物流の減少などから減益

業績推移（百万円）



前期比 経常利益変動要因

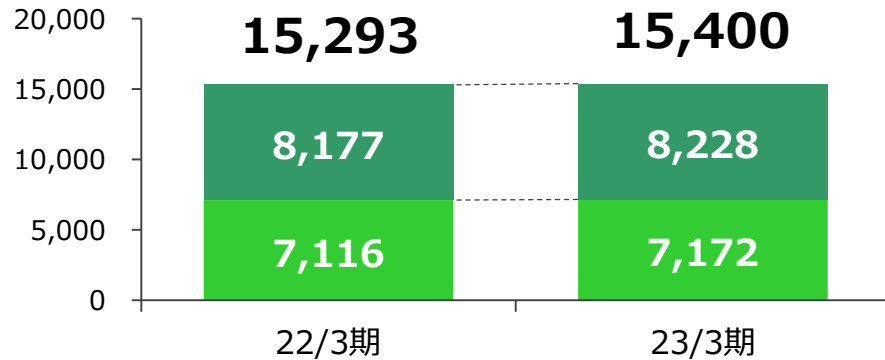
- 既存顧客の取引拡大
- 料金改定やサーチャージ導入
- ▲ 基幹システム導入費用
- ▲ 素材物流の海外向け輸送減
- ▲ 新規冷蔵保管案件の不調
- ▲ ESGコストの増（LED化）

輸送数量減および基幹システム導入費用はあったが、
料金改定および自車稼働の向上により増収増益

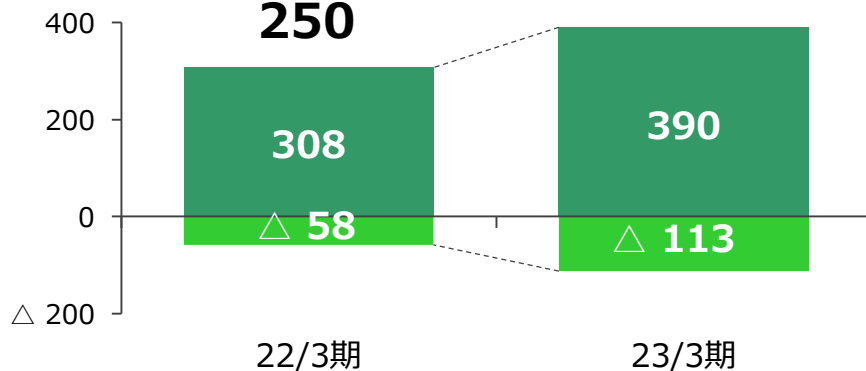
業績推移 (百万円)

● 営業収益

■ 上期 ■ 下期



● 経常利益



前期比 経常利益変動要因

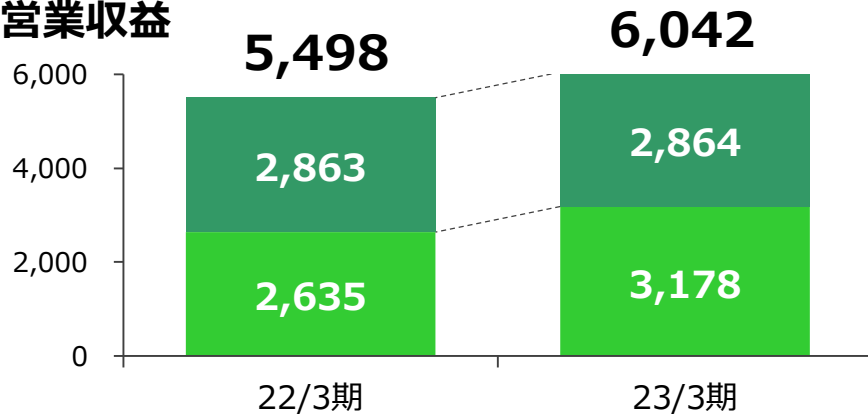
- 既存顧客の料金改定
- 自車稼働の向上
- ▲ 出荷箇所変更に伴う輸送減
- ▲ 基幹システム導入費用

貿易量の減少およびゼロコロナ政策の影響もあったが、 ベトナム現地法人の連結化などから増収増益

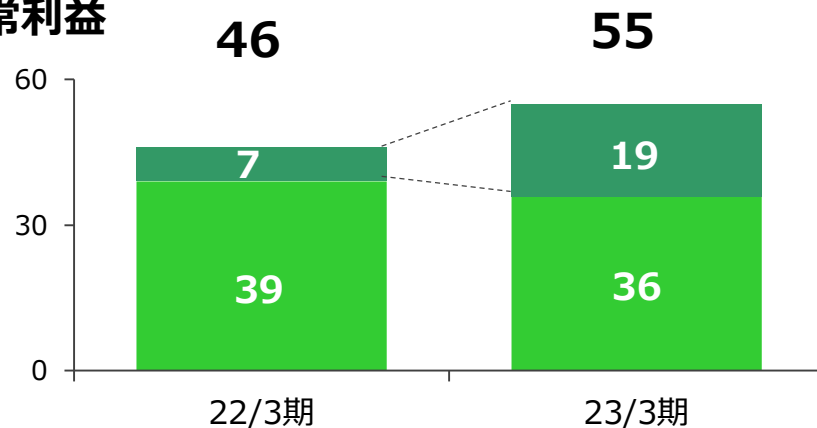
業績推移（百万円）

■ 上期 ■ 下期

● 営業収益



● 経常利益



前期比 経常利益変動要因

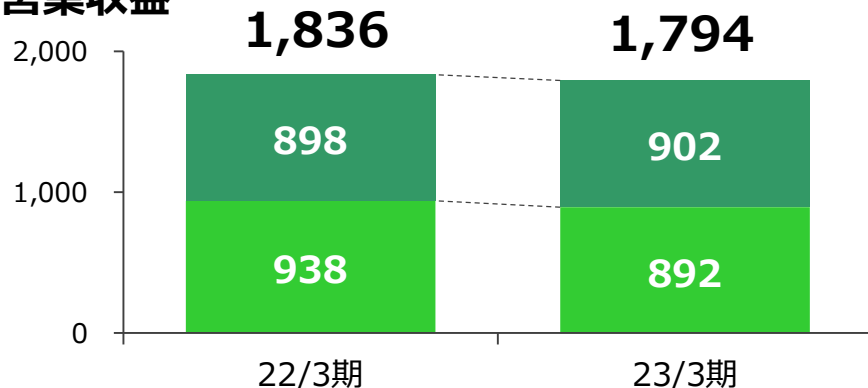
- ベトナム現地法人の連結子会社化
- アルミ製品の取扱数量増
- ▲ 原材料の高騰による貿易量の減
- ▲ ロックダウン等による中国経済の落ちこみによる物流量の減

受託業務の一部終了および定期工事の規模縮小で減収 人員の減少および退職金制度変更に伴うコスト減少で増益

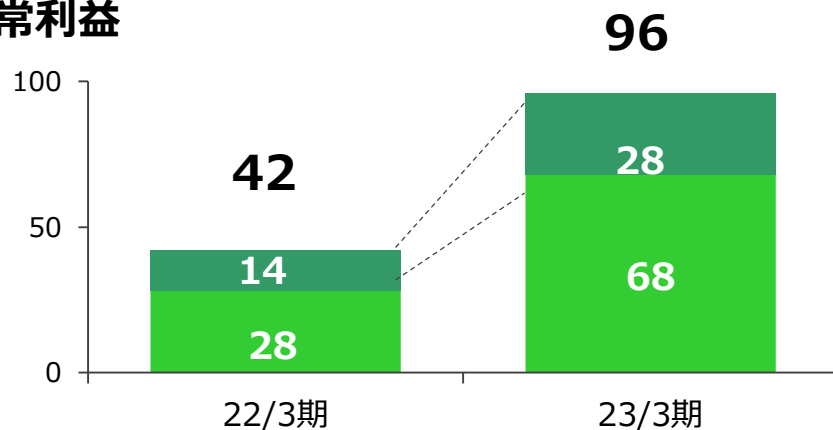
業績推移 (百万円)

■ 上期 ■ 下期

● 営業収益



● 経常利益

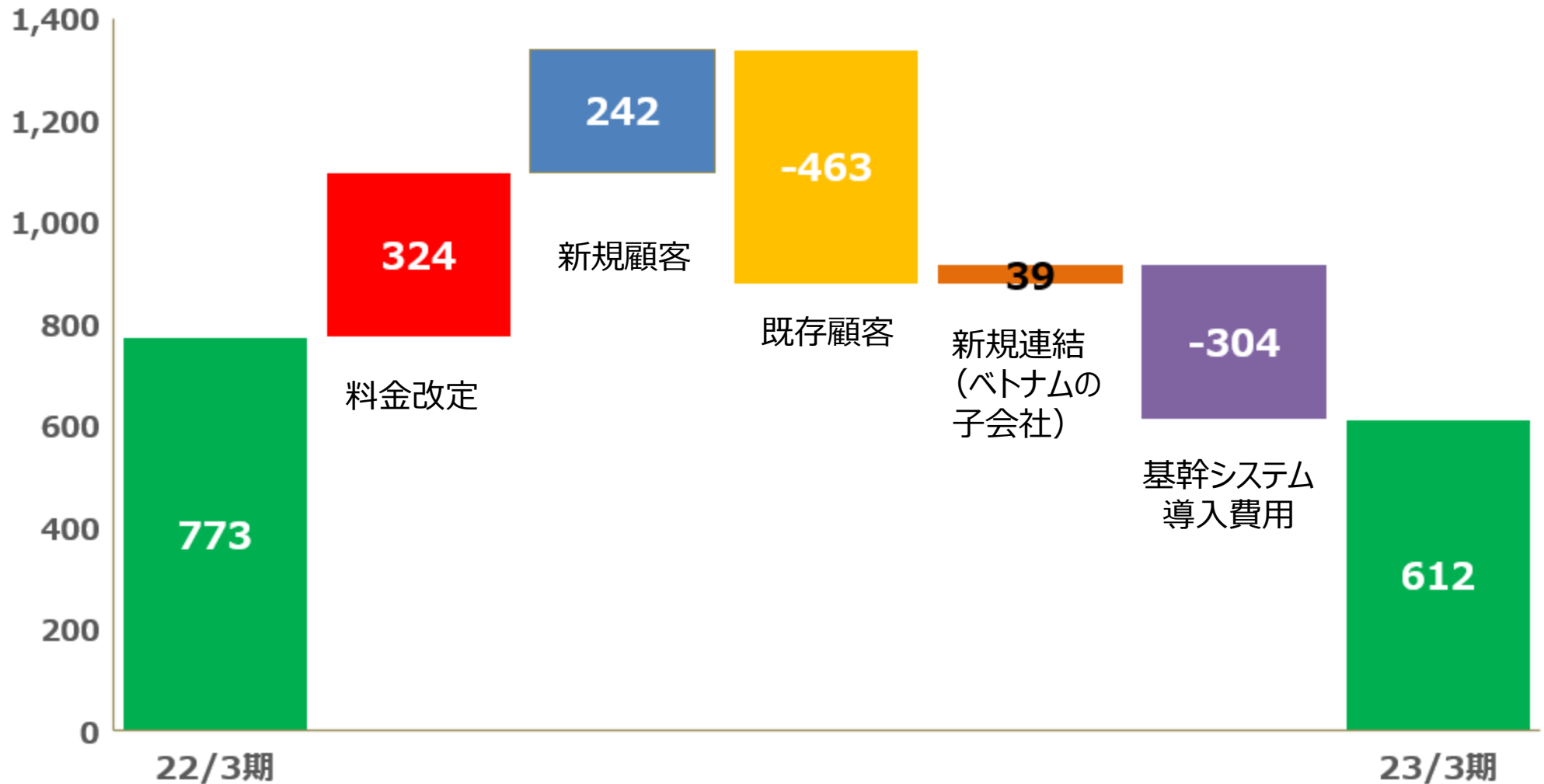


前期比 経常利益変動要因

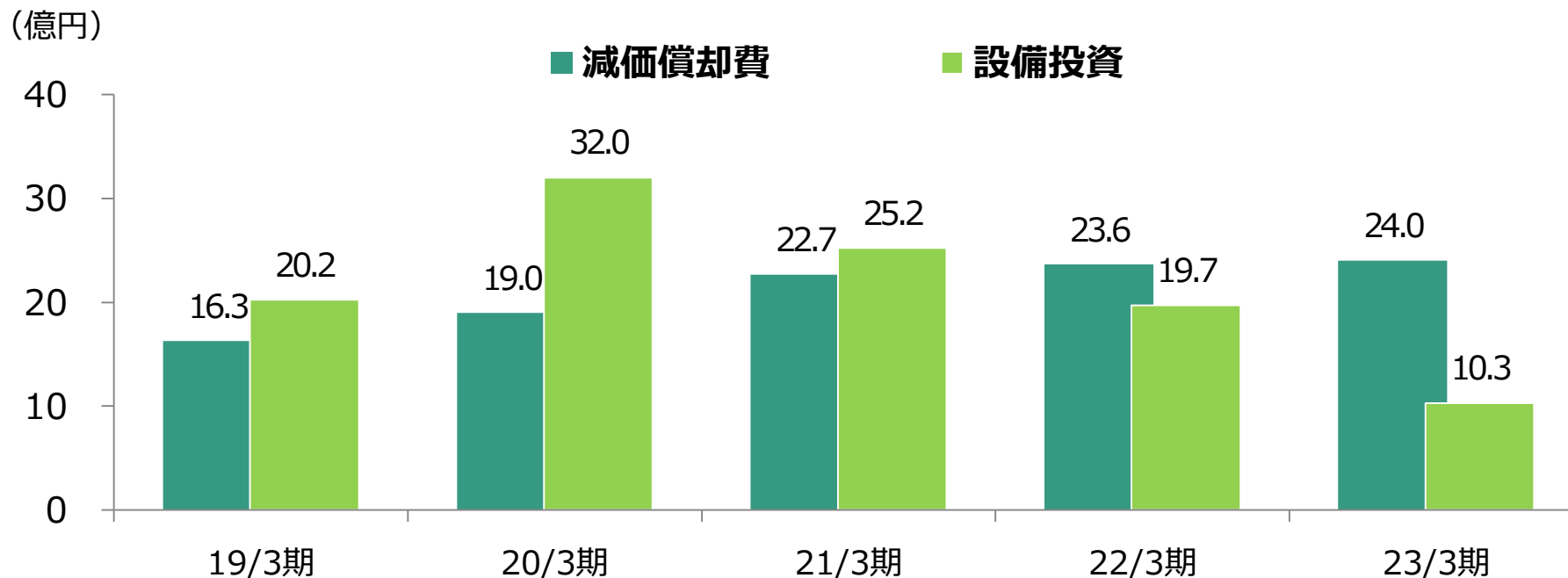
- 人員の減少および退職金制度変更に伴うコスト減 (関係会社)
- ▲ 受託業務の一部終了
- ▲ 定期工事の規模縮小

經常利益推移分析（前期比）

（百万円）

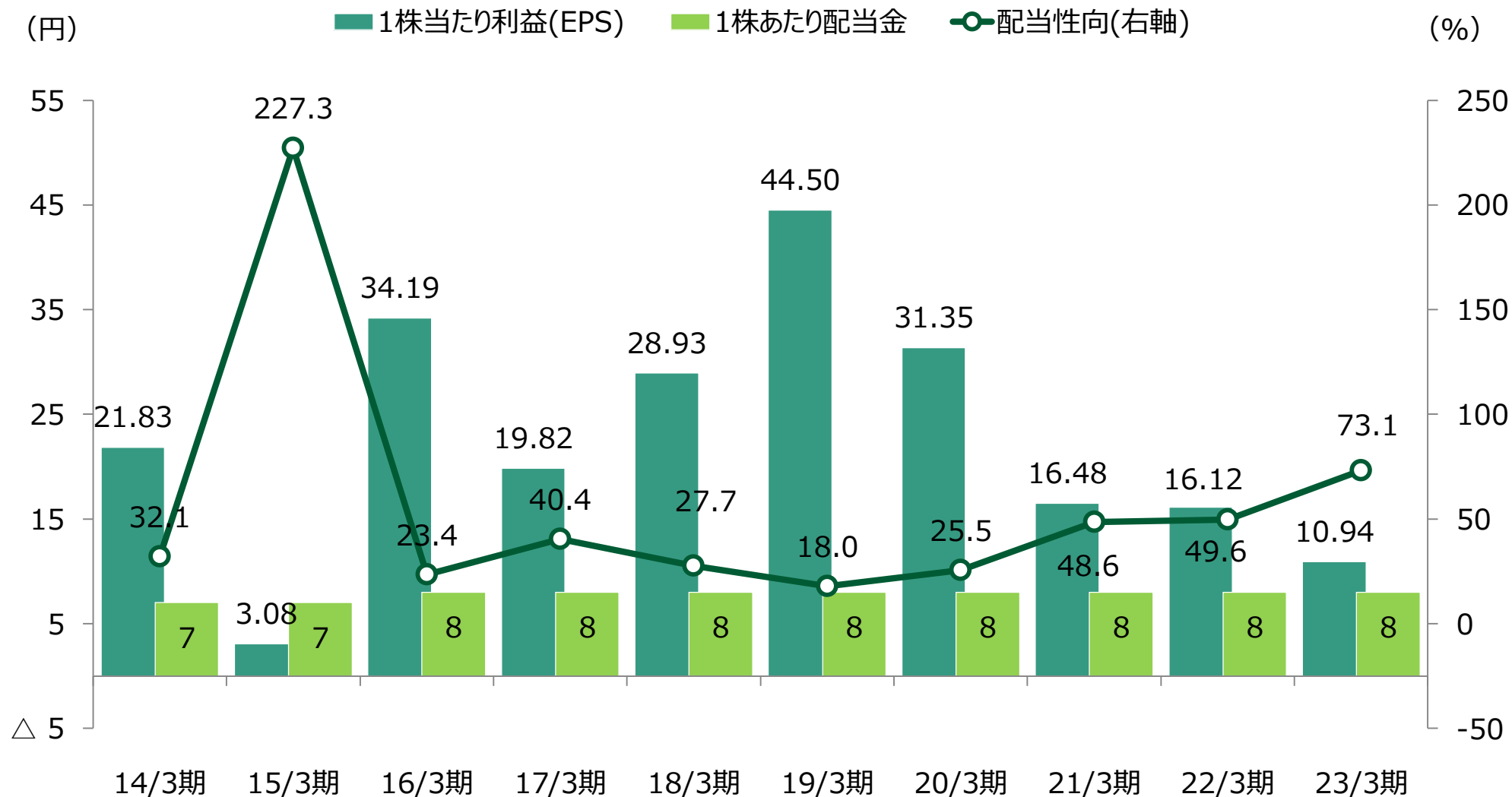


設備投資・キャッシュフロー



(百万円)	2022/3期	2023/3期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,184	3,460	1,276
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,980	△ 918	1,062
フリーキャッシュフロー	204	2,542	2,338

配当の状況



2024年3月期 通期業績予想

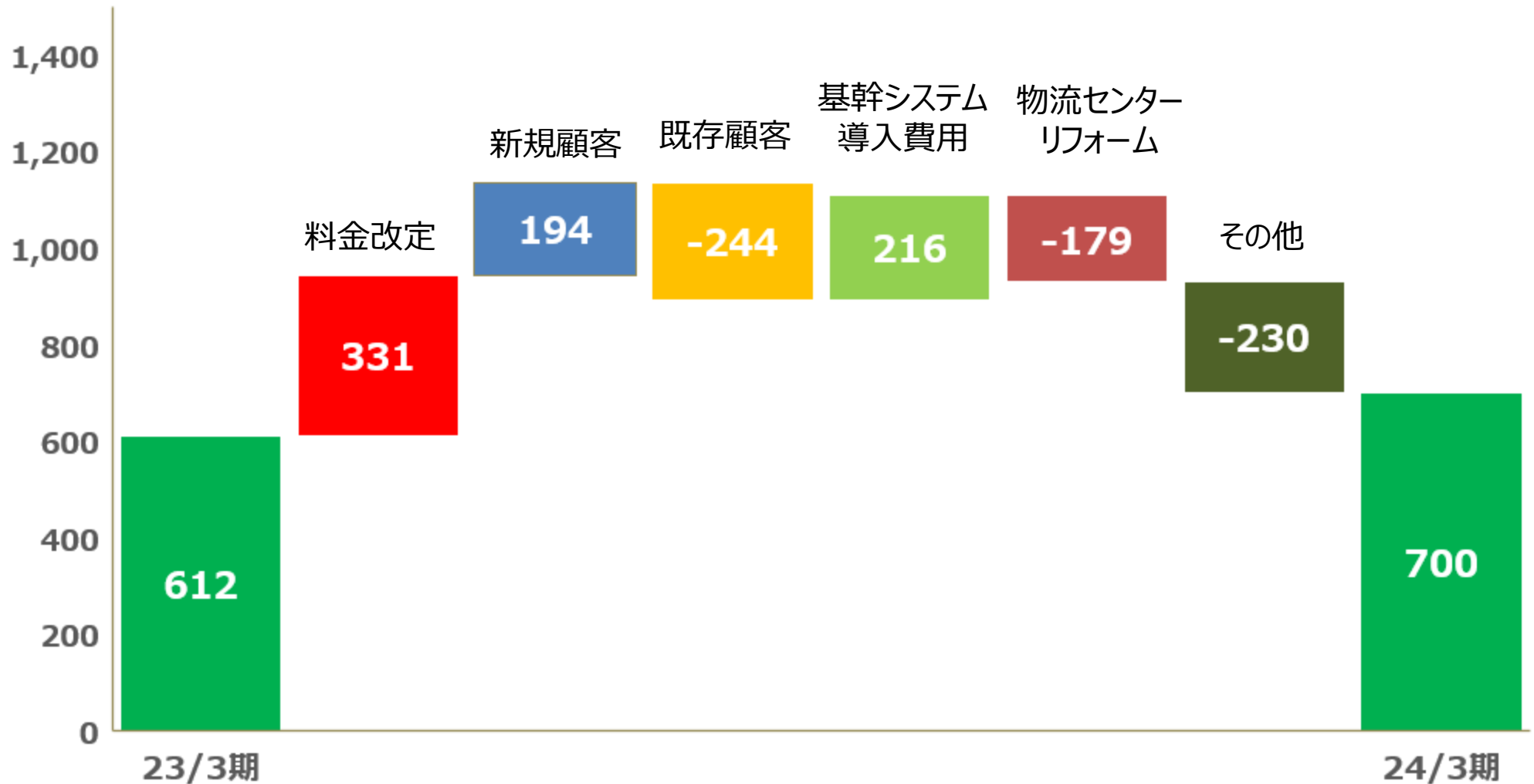
通期業績予想

(百万円)	23/3期		24/3期		前期比
	通期	構成比	通期	構成比	増減額
営業収益	46,586	100.0%	46,800	100.0%	214
貨物輸送	23,324	50.1%	23,100	49.4%	△ 224
エネルギー輸送	15,400	33.1%	15,800	33.8%	400
海外物流	6,042	13.0%	6,100	13.0%	58
テクノサポート	1,794	3.9%	1,770	3.8%	△ 24
その他	24	0.1%	30	0.1%	6
	通期	利益率	通期	利益率	増減額
セグメント利益	612	1.3%	700	1.5%	88
貨物輸送	103	0.4%	116	0.5%	13
エネルギー輸送	277	1.8%	391	2.5%	114
海外物流	55	0.9%	67	1.1%	12
テクノサポート	96	5.4%	44	2.5%	△ 52
その他	80	-	82	-	2
EBITDA	3,014		2,896		△ 118

※百万円未満は切り捨てしております。「その他」の事業は、損害保険代運業・事務代行業等であります。

経常利益推移分析（前期比）

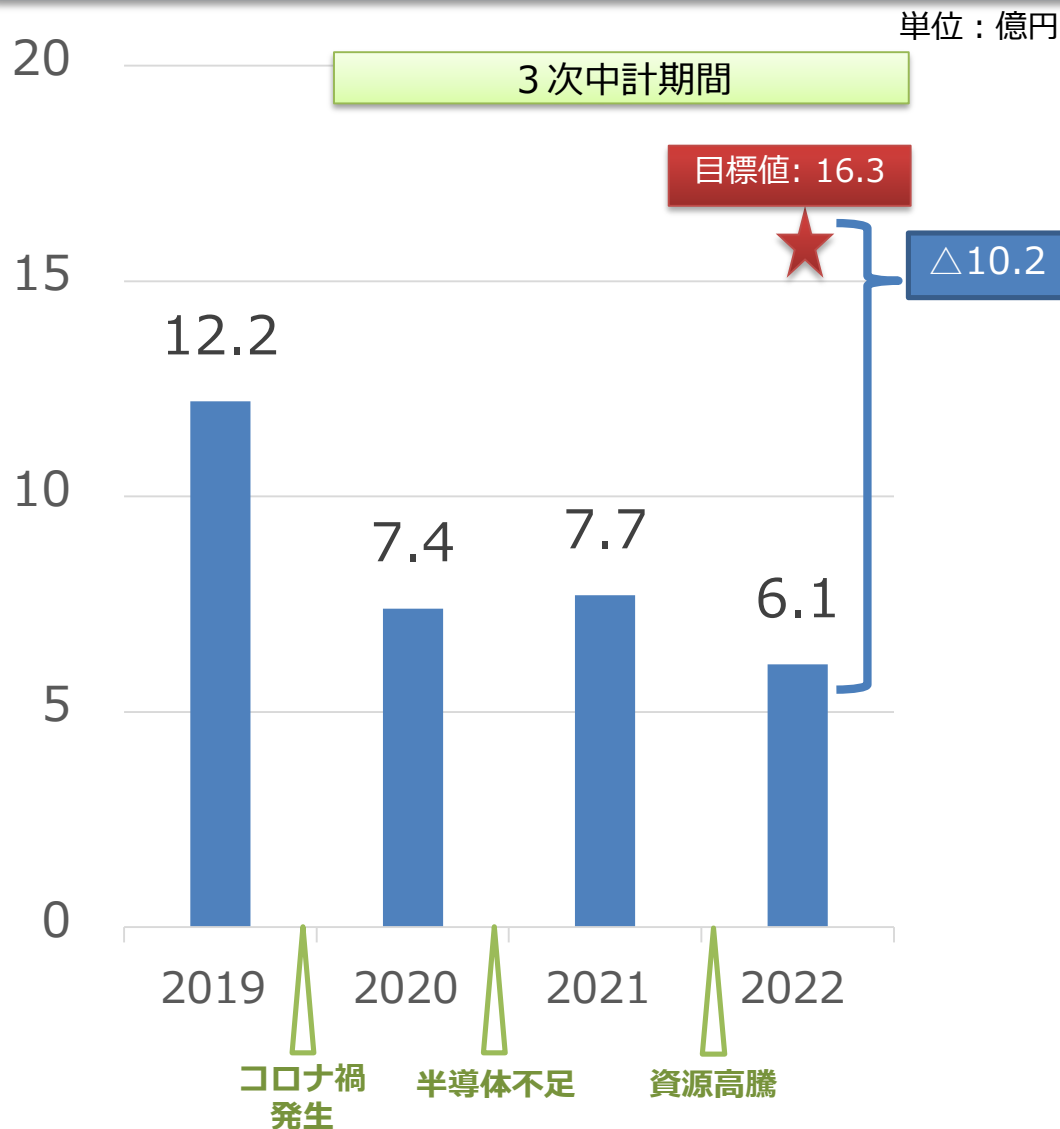
（百万円）



第3次中期経営計画の振り返り

振り返り(1) 収支計画

経常利益の推移



セグメント別内訳

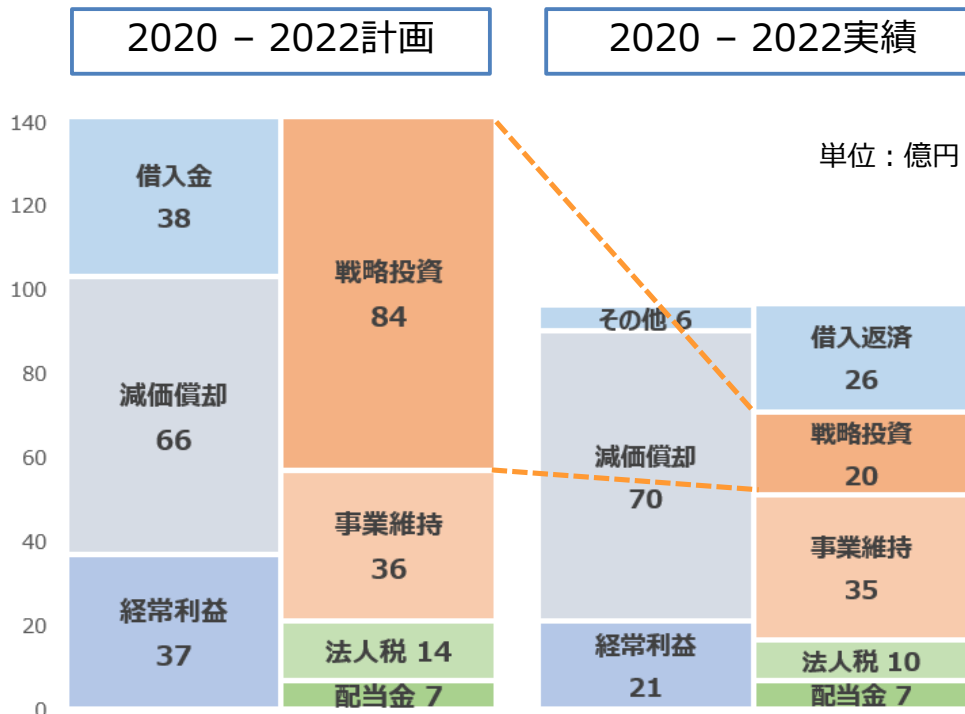
	目標	実績	差異
貨物輸送	9.1	1.0	△8.1
エネルギー輸送	2.7	2.8	+0.1
海外物流	3.2	0.6	△2.6
テクノサポート	0.6	0.9	+0.3
その他	0.7	0.8	+0.1
計	16.3	6.1	△10.2

- 第3次中計策定直後にコロナ禍が発生。サプライチェーンの寸断により物流量が著しく減少
- その後も半導体不足および資源高により自動車向け素材等、顧客企業の生産活動が停滞。これにより貨物輸送セグメントおよび海外物流セグメントの利益を圧迫。
- 更に2022年度は、基幹システム (MLS) の立上げ遅延と費用増の影響(計画比4.1億円悪化)により利益を押下げ

振り返り(2) 投資計画

キャッシュフローアロケーション

- 戦略投資は計画84億円に対し実績20億円



戦略投資の主要プロジェクト

- 基幹システム更新等は実行するも、倉庫投資等は顧客事業計画の変更に伴い断念
- M&A/資本参加は対象会社の見直し等、検討継続

単位：億円

計画	実績	対計画
基幹システム更新	(○)実行	(+) 4
新座冷凍倉庫拡張	(○)実行	(±) 0
機工：門型クレーン導入	(○)実行	(±) 0
関東地区倉庫建設	(×)断念	(-) 20
中部・関西地区危険物倉庫新設	(×)断念	(-) 20
その他M&A/資本参加案件等	(×)延期	(-) 28

第4次中計への課題

1. 顧客企業依存型の投資戦略から、自律的成長の実現に向けた投資戦略へシフト
2. 専門性の高い輸送・保管体制を構築し、強みを活かした提案営業力を獲得

振り返り(3) 新たな取り組み

ESG経営への移行 (2021年～)

- ▶ コロナ禍により、エッセンシャルワーカーとしての物流企業の重要性が浮き彫りに
- ▶ 2021年度よりESG経営へ移行、非財務指標の長期目標を設定

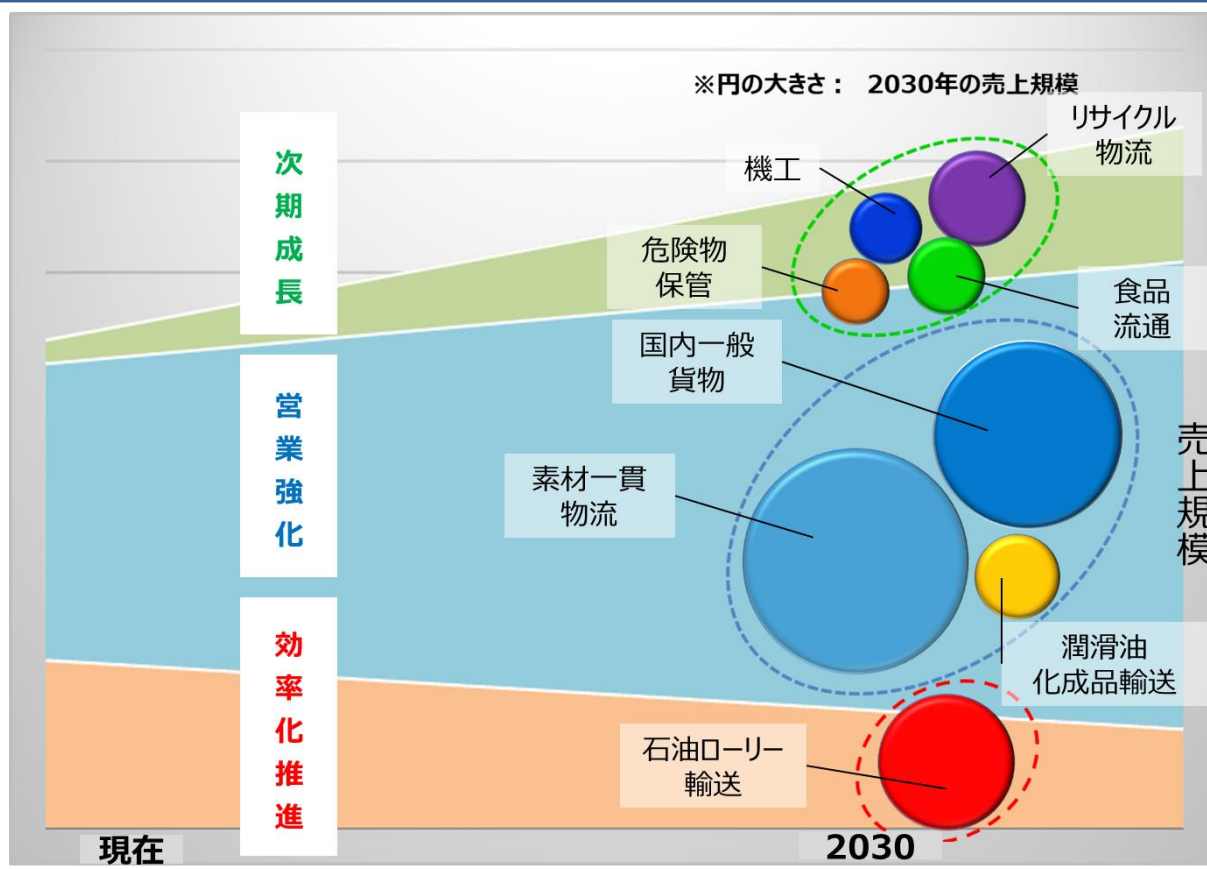
項目	最優先課題	長期目標
E 環境	脱炭素社会の形成	CO ₂ 排出量: 2019年度比20%以上削減 (2030年度目標: 31,351 t-CO ₂)
	環境負荷の低減	トラック・タンクローリー輸送に比べ CO ₂ 排出量の少ない鉄道・内航船輸送を推進
S 社会	運輸安全の向上	重大事故件数 0件/年
	労働安全衛生の向上	労働災害 0件/年
	ダイバーシティの 推進	女性採用比率50%以上の維持
		女性キャリアパスの作成、 女性管理職比率10%以上
	法定雇用率 (2.3%)を上回る障がい者の雇用	
G ガバナンス	コンプライアンスの 徹底	コンプライアンス研修の充実による 丸運グループ従業員のコンプライアンス意識徹底

2030丸運グループ長期ビジョン(骨子)

あるべき姿

- ▼ 貨物輸送とエネルギー輸送の両輪経営を継続し、高いコスト競争力と提案営業力を有する物流エキスパート企業となることを目指します。
- ▼ そのために、国内一般貨物を基盤として、素材の国内外一貫物流を強化すること、今後市場成長が見込まれるリサイクル物流分野、機工分野、食品流通分野および潤滑油化成品等の危険物保管分野への積極的な投資を実行することにより成長を追求します。
- ▼ また、減少していく石油輸送については、安全を確保しつつ効率化を推進します。

成長戦略



2030目標収益

- ▼ 営業収益： 600億円以上
- ▼ 経常利益： 20億円以上

2022-30目標投融資額

- ▼ 250億円(9か年) *M&A含む
- 維持更新： 130億円
- 営業強化分野： 60億円
- 次期成長分野： 60億円

第4次中期経営計画の概要

第4次中計(1) 位置づけ

- コロナ禍等による顧客動向変化への対応
- アフターコロナに向けた事業・経営基盤の強化

- 顧客企業の稼働停滞に伴う需要減および戦略投資プロジェクト断念・延期
- 営業拠点統廃合
- ESG経営への移行
- MLS導入

- 長期ビジョン実現に向けた基礎固めと種まき
- 2024年問題等物流企業の課題への適切な対応

- 提案営業の強化及びコスト競争力強化のための各種施策実行
- 新規事業領域への進出に向けたM&A/資本参加
- 顧客と共同した輸送効率化策の推進

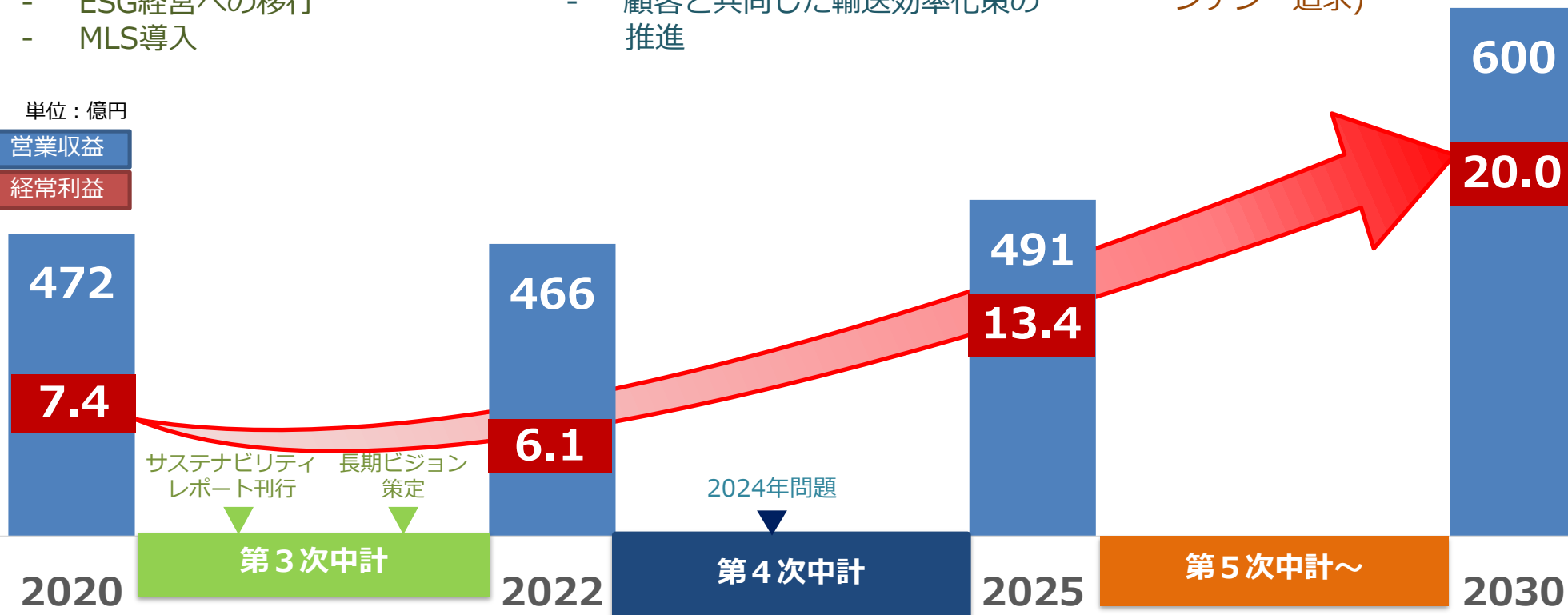
- 長期ビジョンに掲げた投資案件の回収と収益拡大

- 強化した営業力を活用した事業拡大策の実行
- 次期成長分野での収益安定化(M&A/資本参加先とのシナジー追求)

単位：億円

営業収益

経常利益



長期ビジョン実現に向けた基礎固めと種まき

具体的な 施策等

1. 提案営業力の強化

- ▶ 素材関連メーカーとの関係を一層密にし、重量物運搬などの当社の強みを活かしたタイムリーな物流提案を進めることで輸送・保管案件を獲得
- ▶ ベトナム・中国拠点と国内拠点間での連携等、エリアをまたいだ一貫物流の提案・営業による新規顧客獲得

2. コスト競争力の強化

- ▶ 組織改革による業務効率化を推進
 - 貨物輸送拠点：営業とオペレーションを分離した体制に移行
 - エネルギー輸送拠点：需要減退に応じた配送体制の最適化
- ▶ 3次中計期間中に国内対象拠点への導入が完了した基幹システム (MLS) と連動した在庫管理・作業効率化のサブシステムを導入

3. 次期成長分野拡大の種まき

- ▶ リサイクル分野と機工分野の拡大のためM&Aや資本参加を能動的に実行※
そのための社内プロジェクトを立ち上げ準備が進行中
- ▶ 関東地区において危険物倉庫の建設を計画

2024年問題への適切な対応 ～持続可能な輸送サービス体制の構築～

具体的な 施策等

1. 区域輸送

輸送パターン毎の自社・備車コスト構造を的確に把握し顧客と共有

顧客と共有し改善する項目 (例)

- 運行回数・配車の平準化
- 入出庫体制の見直し
- 荷役・荷待ち時間の短縮等

2. 長距離輸送

以下の施策による輸送効率化の追求

- (1) エリアを跨いだ独自の積合せ輸送モードの開発
- (2) 通運事業者ネットワークを活かした共同配送の活用

3. 第4次中計期間中の業績影響

2024年問題に伴うコストアップについては、顧客への丁寧な説明を通じて理解を得ることにより、損益への影響を最小化できるものと想定

(想定されるコストアップ要因)

- (1) 備車先におけるコスト増
- (2) 時間外労働手当の減額分に対する補填
- (3) 時間外労働減少分の労働力確保
- (4) 市場動向によるコスト増

第4次中計(3)セグメント別事業戦略

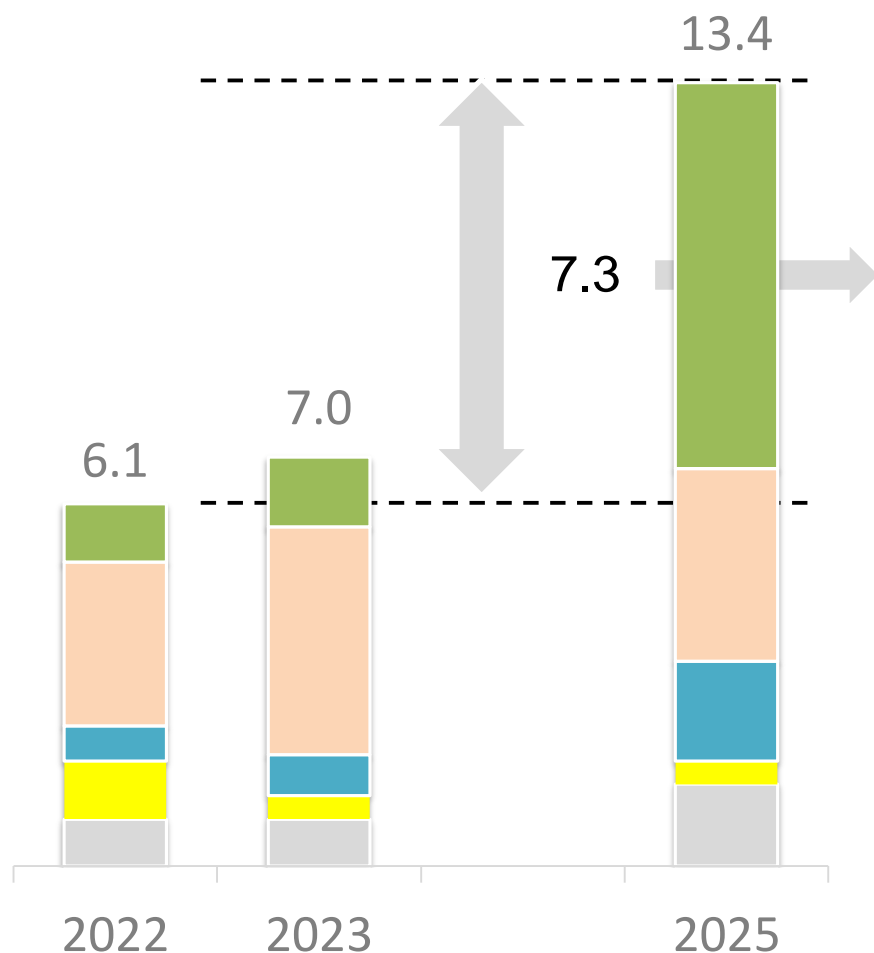
セグメント	基本方針	事業戦略
貨物輸送	<ul style="list-style-type: none"> ■ 適正料金の收受 ■ 素材関連分野の強化 および新規顧客開拓による 業容拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基幹システムを使ったコスト構造の把握による適正運賃の設定 および提案 ・ 主要顧客の動向に合わせたタイムリーな提案 ・ ITツールの導入を活かしたエリア間の情報共有および 潜在顧客へのアプローチ ・ 拠点別からエリア別営業への拡大
エネルギー輸送	<ul style="list-style-type: none"> ■ 石油輸送部門の徹底 効率化 ■ 潤滑油・化成品の輸送・ 保管の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2024問題を踏まえた料金改定 ・ 組織・配送網の最適化および自車比率向上 ・ 余剰が見込まれる石油輸送の能力を潤滑油・化成品にシフト ・ 既存の貨物事業拠点を活かした危険物保管事業の強化
海外物流	<ul style="list-style-type: none"> ■ 素材一貫物流 ■ ベトナム事業・食品輸出 事業の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貨物輸送事業部と一体となった主要顧客の動向把握および 一貫物流の提案 ・ ベトナムにおける物流サプライチェーンの強化 ・ 生鮮品フォワーダーとの提携による物流・商社機能の相互補完 と収益拡大
テクノサポート	<ul style="list-style-type: none"> ■ 受託業務の維持継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 顧客ニーズの把握と安全・環境・品質活動に対する フォローの継続

第4次中計(4)収支計画 (経常利益)

中計最終年度2025年の目標値は2022年度実績比7.3億円増の13.4億円

単位：億円

4次中計期間



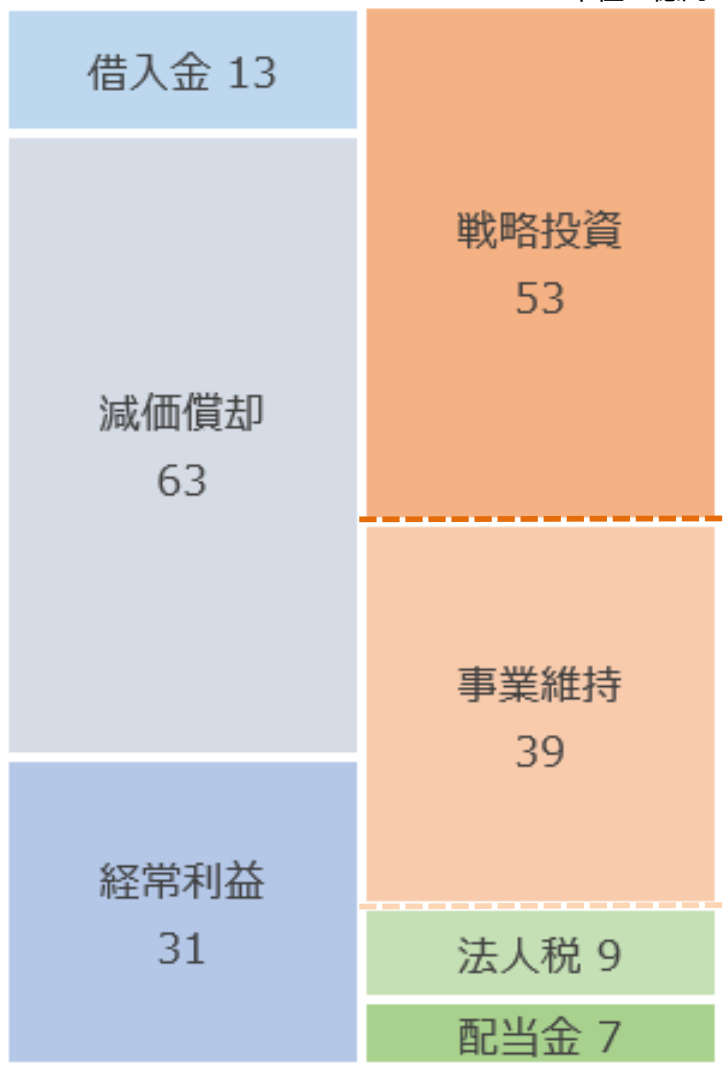
セグメント	2022 → 2025	差異	主要要因
貨物輸送	1.0 → 6.6	5.6	○ 料金改定 ○ 素材関連拡大 ○ 償却負担減 [※] 等
エネルギー輸送	2.8 → 3.3	0.5	△ 石油輸送量減 ○ 運賃改定 ○ 償却負担減 [※] 等
海外物流	0.6 → 1.7	1.1	○ 料金改定 ○ 素材一貫物流 ○ ベトナム拡大等
テクノサポート	1.0 → 0.4	△0.6	△ 一時要因解消
その他	0.7 → 1.4	0.7	

※ 車両代替投資の平準化に伴う効果

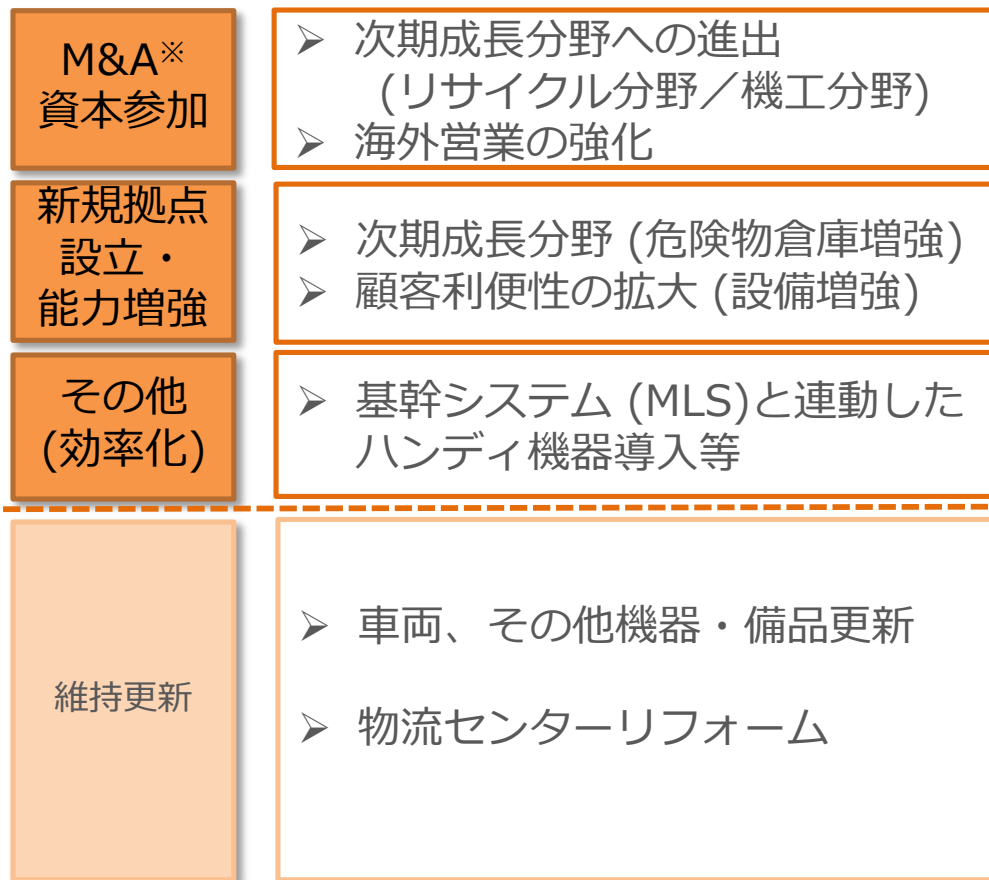
第4次中計(5)キャッシュフローアロケーションと投資計画

2023 - 2025 キャッシュフローアロケーション

単位：億円



2023 - 2025 投資計画

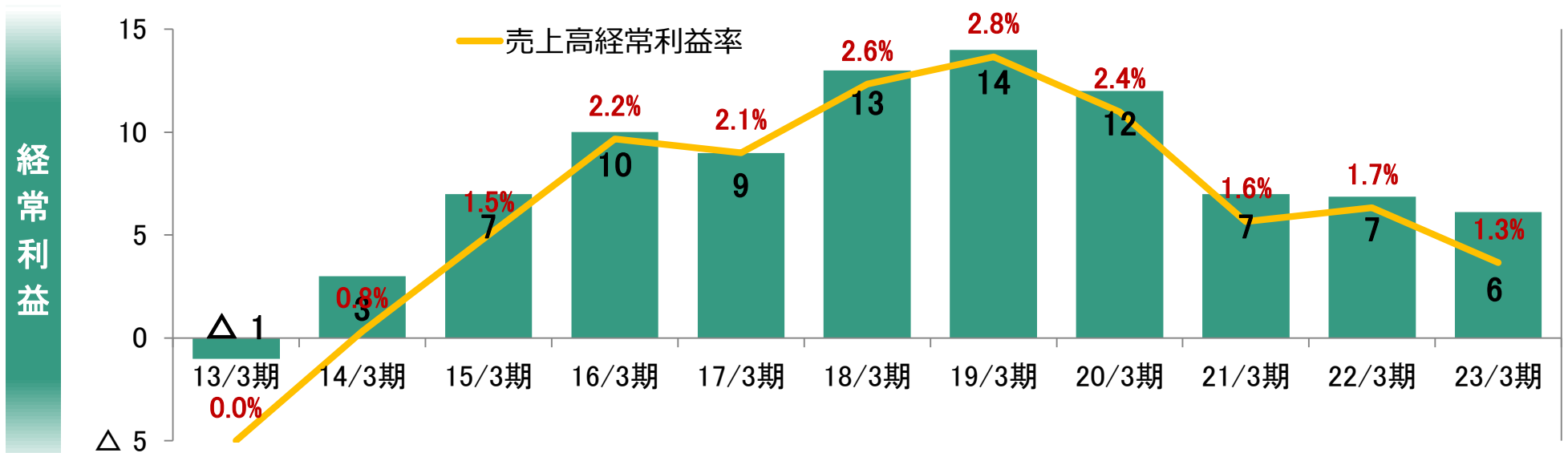
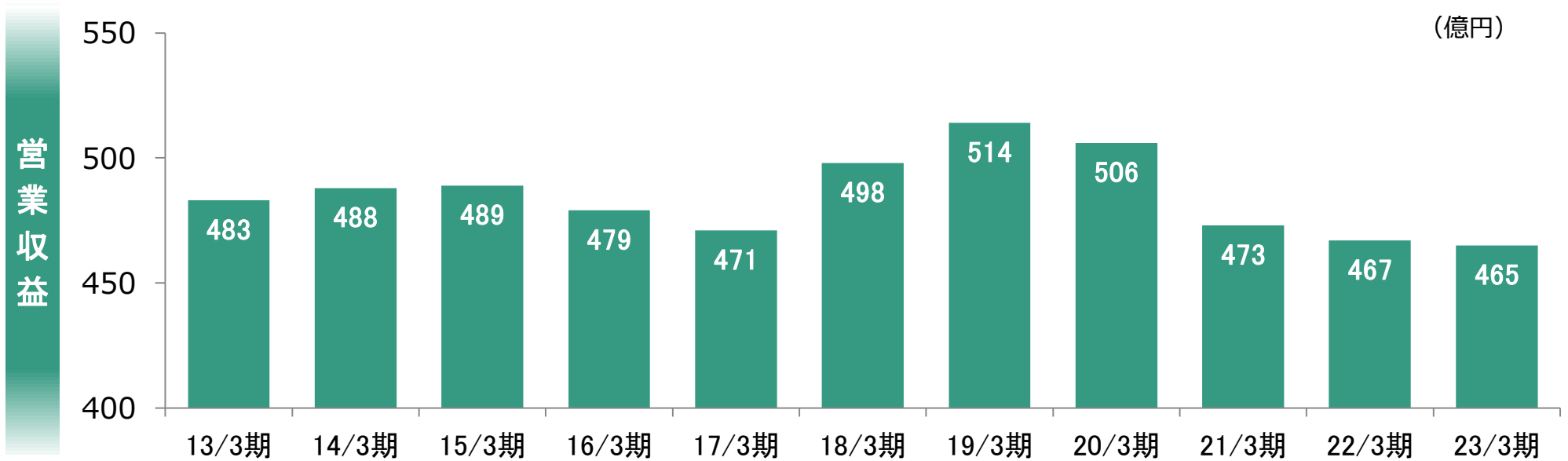


※ M&A実行に伴う損益への影響は、収支計画には織り込んでいない

參考資料

業績推移

Maruwn Corporation



BS・CF推移

BS (百万円)		13/3期	14/3期	15/3期	16/3期	17/3期	18/3期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期
流動資産		9,337	10,478	9,720	8,975	9,092	9,439	9,999	11,204	10,908	9,805	9,543
	有形固定資産	28,078	26,047	25,353	24,723	25,067	24,715	24,779	25,910	25,663	24,842	23,849
	無形固定資産	204	269	259	309	276	236	276	1,084	1,373	1,542	1,175
	投資その他資産	2,835	2,620	2,788	2,893	2,616	3,181	2,972	2,655	3,109	2,915	3,116
固定資産計		31,118	28,938	28,401	27,926	27,959	28,133	28,028	29,651	30,147	29,300	28,141
総資産		40,482	39,426	38,121	36,901	37,052	37,573	38,028	40,856	41,055	39,106	37,685
	流動負債	11,880	11,528	11,754	9,428	10,102	8,988	9,501	10,545	9,888	8,489	7,545
	固定負債	9,759	8,827	7,020	7,312	6,283	6,952	6,079	7,273	7,310	6,494	5,660
負債合計		21,639	20,355	18,775	16,470	16,385	15,941	15,581	17,819	17,199	14,983	13,205
純資産合計		18,843	19,070	19,346	20,160	20,666	21,632	22,446	23,037	23,856	24,122	24,479
自己資本		18,646	19,057	19,337	20,103	20,602	21,552	22,360	22,724	23,561	23,778	24,166

CF (百万円)		13/3期	14/3期	15/3期	16/3期	17/3期	18/3期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期 第2Q	22/3期 第3Q
営業CF		902	694	2,115	2,160	1,636	2,049	2,525	2,182	2,738	2,184	3,460
投資CF		△ 2,508	1,439	△ 1,030	△ 1,271	△ 1,671	△ 1,177	△ 1,321	△ 3,055	△ 2,399	△ 1,980	△ 918
財務CF		157	△ 1,850	△ 1,637	△ 934	△ 602	△ 879	△ 651	2,116	△ 773	△ 1,511	△ 2,189
現金・現金同等物の期末残高		2,108	2,428	1,879	1,885	1,550	1,555	2,094	3,301	2,902	1,660	2,056

PL (百万円)	13/3期	14/3期	15/3期	16/3期	17/3期	18/3期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期
営業収益	48,397	48,864	48,904	47,924	47,117	49,842	51,409	50,680	47,270	46,705	46,586
営業総利益	2,238	2,641	3,319	3,775	3,805	4,118	4,326	4,115	3,529	3,745	3,535
販管費および 一般管理費	2,329	2,400	2,704	2,805	2,925	2,934	3,050	3,056	2,867	3,079	3,095
営業利益	△ 91	240	615	970	880	1,184	1,276	1,059	661	665	439
営業外収益	155	246	194	207	143	168	196	199	129	145	208
営業外費用	125	104	80	122	45	39	40	41	47	37	36
経常利益	△ 60	382	729	1,054	978	1,312	1,432	1,217	743	773	612
特別利益	81	1,363	64	906	109	141	458	224	127	102	62
特別損失	95	470	346	781	50	87	39	25	111	90	163
税引前利益	△ 75	1,275	447	1,179	1,037	1,366	1,851	1,416	759	785	511
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 102	630	88	987	572	835	1,285	905	475	465	316
売上高経常利益率	△0.1%	0.80%	1.50%	2.20%	2.10%	2.60%	2.80%	2.40%	1.60%	1.65%	1.31%
ROA	△0.1%	1.00%	1.90%	2.90%	2.60%	3.50%	3.80%	3.09%	1.82%	1.93%	1.63%
ROE	△0.5%	3.30%	0.50%	4.90%	2.80%	3.90%	5.90%	4.01%	2.06%	1.97%	1.32%
PBR	0.38	0.37	0.39	0.36	0.36	0.45	0.38	0.29	0.35	0.30	0.27
1株あたり純資産	645.35円	659.63円	669.35円	695.88円	713.15円	746.07円	774.07円	786.68円	815.64円	823.19円	836.63
1株あたり配当金	6.00円	7.00円	7.00円	8.00円	8.00円	8.00円	8.00円	8.00円	8.00円	8.00円	8.00円
1株あたり当期純利益	△3.55円	21.83円	3.08円	34.19円	19.82円	28.93円	44.50円	31.35円	16.48円	16.12円	10.94
自己資本比率	46.10%	48.30%	50.70%	54.50%	55.60%	57.10%	58.80%	55.62%	57.39%	60.80%	64.10%



将来見通しに関する注意事項

本資料に記載されている当社の現在の計画、戦略などは、当社が現時点で入手可能な情報を基礎として作成した見通しであり、これらの将来予測については、リスクや不確定な要因を含んでおります。

そのため、実際の業績につきましては、記載の見通しと大きく異なることがあり得ます。

従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんので、ご了承ください。

問合せ先：株式会社丸運 広報・IR部
TEL 03-6810-9476/FAX 03-6810-9645
<https://www.maruwn.co.jp/>
e-mail: irkouhou_mw@maruwn.co.jp